

この度、二次記述の合格通知を受け取る事ができました。これもMMCでご指導頂いたお蔭によるものと感謝しております。

1. 私の受験歴

1年目：独学

一次科目合格(2科目)

2年目：大手予備校通信

一次合格、二次不合格(BBBC：総合B)

3年目：MMC通学

二次不合格(ACBA：総合B)

4年目：MMC通信(大阪転勤のため)

一次合格、二次筆記合格

得意事例：事例Ⅰ、Ⅲ

苦手事例：事例Ⅱ、Ⅳ

(※)得意、苦手は演習や模試の得点順位等

生命保険会社で販売促進部門に従事していたので、事例Ⅱ(マーケティング)は好きでしたが、最後まで得点に苦しみました

徳川先生からは、「自分が得意に思っているところほど間違える。試験では、変な先入観やプライドを捨てないと」といつもお叱りを受けていました。

2. MMCの良かったところ

初めての二次受験の時には、何をどう勉強したらいいのかわからないまま、いろんな参考書を食い散らかして試験に臨みました。

当日、試験問題を前に、考え込んでしまい(というより、食い散らかしていた為、あちこちに考えが飛んでしまい)時間が不足。最後は支離滅裂な羅列状態でマス目を埋めるだけに終わり、不合格。

そこで、二次試験対策で評判の高いMMCにお世話になることを決めました。

MMCの良かったところは、

①MCサークルによる分析のフレームワークと解答手順を徹底的に鍛えてもらえる

(→80分の納期確保に向けた工程策定)

②切り口・型・キーワードという武器の事前準備により、安定した解答作成ができる

(→標準化による解答品質の確保・向上)

ことだと思えます。

二次試験は、正解も公表されないため、独りでは、霧の中を歩いていくようなものです。

MMCでは、明確な手順や武器を示してくれるので、合格への道筋(何を準備しなければならぬか)がはっきりし、演習を通じて自分が今、何合目にいるかがわかります

私自身がそうだったのですが、本番で苦戦してしまうのは、本番での緊張や、変化球的な問題による動揺で、実力が十分に発揮できないまま、終了時間を迎えるためではないでしょうか？

MMCでは、切り口、型、キーワードの習熟で、土台(フレームワーク)がしっかりすることで、変化球的な問題が出て落ち着いて対処することができるようになり、本番でのブレ(考え込む)やパニック→時間不足、になることがなくなりました。

また、MMCで有難かったのは、

「80分の時間で合格答案を作成する(伝わりやすく、採点者に気に入ってもらえる)」アウトプットに重点を置いてくれている点でした。

(某予備校の解答などは練られ過ぎていて?、とても時間内に書ける代物ではないなあ、と思っていました)

通学、通信ともに、学習を進めていくうえで重点を置いたのは添削答案の復習でした。

答案の得点に一喜一憂しがちですが、添削のコメントは(たとえ一言であっても)自分が気づかない癖や歪みを直す薬だと思えます。

定期的にコメントを見直して、自分の癖や歪みが直ってきているかチェックすることは大切だと思いました。

今年の本番2週間前には、これまでの演習や模試のコメントだけを全部見直しました。

事例Ⅳは、MMCのレベルは質量ともに高いので、応用計算問題事例と演習や模試を繰り返せば十分だと思いますし、GWのオプションまでやれば、本番の試験問題は、ずっとやさしく感じられます。

そして、何よりも合格の決め手になったのは、MMC講師陣の方の熱い指導や暖かいアドバイスがあったことに尽きます。何度も諦めかけた私がモチベーションを維持できたのは、MMCのお蔭だと思っています。

受験生の皆さん、50半ばを過ぎて、頭の回転が鈍くなってきた私でも、何とか合格できました。MMCを信じて、来年の合格に向け、頑張ってください。

本当にありがとうございました。